

2017年7月

NPO法人 学習塾全国連合協議会 東日本ブロック

NPO 塾全協

塾全協東通信



題字：伶齋（白川亮 進ゼミ柏）

NPO 塾全協西日本ブロック 第41回塾全協教科指導研修会に講師として参加してきました

中村基和

日時：2017年6月18日（日）PM3:00～5:00

場所：サムティフェイム新大阪

参加者：15名

去年の西日本ブロックの忘年会に参加したとき、前に座っていた西日本ブロックの中村勲先生に教科研修会の講師を頼まれてしまいました。かつて東日本からは沼田先生（詩の朗読）、菅原先生（公立中学校との連携）、山本先生（英検二次試験のポイント）など素晴らしい内容で講師として参加されていますが、私は一体何が出来るのか？困ってしまいましたが、塾教師を始めてから一貫して今までにやり続けたことーオリジナル教材づくり（私の特色は低学力者向けのものが多いこと）でした。1970年代後半、市販の教材も塾用の教材も勉強の出来る子用のものは沢山ありましたが、低学力者向けのもの、特に英語が皆無であることに気付きました。低学力者はやる気がないから買わない。ということは売れないから作らないということもあるのですが、もうこうなったら自分で作るしかないということで作り初め、現在に至りました。当初はタイプライターを使っていました。そのあとワープロ専用機、そしてPC。様々なプリントのサンプルを事務局長の村田先生の所に送り、コピーして貰いました。1人分50枚を越えてしまい、さぞかし大変だったろうと思います。村田先生、すみませんでした。当日のレポートは西日本ブロックの先生にお任せします。（自分で書くのは恥ずかしいということもありますので）



塾探訪 2017 その1

共学館義塾（大阪府吹田市）

日時：2017年（平成29年6月19日 AM10時～11時）

文と写真：NPO 塾全協全国事務局長、東日本ブロック広報局長 中村基和

今年度初めての「塾探訪」。今回は前日のNPO 塾全協西日本ブロック教科研修会に出席した翌朝、西日本ブロック事務局長 村田芳昭先生の経営する共学館義塾にお邪魔することになりました。

新大阪駅から2駅（所要時間5分くらい）のJR吹田駅降りて2、3分。商店街の道沿いのビルの4階に共学館義塾の袖看板が見えました。エレベーターに乗って4階で降りると村田先生が待っておられました。では、早速見学&インタビューです。



中村：広いロビーで、奥の方はまるで図書館みたいです
ですね。

村田：基本的には「図書館造り」です。子供たちが
本を読めるようにしてあります。

中村：村田先生が塾を始めたのはいつごろですか。

村田：実は私はこの共学館義塾に小6から中3ま
で通っていました。この塾が始まったのは1954年。
大学に入ってからはここでバイトし、大学を出て



から共学館義塾に就職しました。他に分教室が6ヶ所あって、私が総取締役をしていました。そして経営者の方が他の仕事をするために私が引き継ぐことになりました。個人塾（自営）として平成6年から始めましたが、現在分教室はありません。

中村：バイトが仕事になり、そのうち自分で経営するようになる。私もそのタイプでしたが、塾経営者には非常によくあるパターンですね。

村田：そうですね。

中村：ご自分では何を教えられていますか。

村田：小学生には算数・国語、中学生には数学を教えています。私は文系の人間ですが、バイトとして塾教師を始めたときは理科を教えました。教える人がいないからです。

中村：よくある話ですね。理数の先生は足りないのですよね。私は数学は教えられますが、理科は全く駄目です。教室を拝見したところ、主体はクラス一斉授業で個別指導も行っているという感じですが。クラス授業は何人くらいでやっていますか。



村田：20人くらい入れる部屋もありますが、8～12人くらいでやっています。個別指導は1対1のみです。

中村：以前、講師は教え子のみと聞いたことがありますが。

村田：そうです。一人社会人がいますが他は学生で全員教え子です。

中村：私は学生はあまり雇わないのですが、雇う場合は教え子に限定しています。その方が内の塾のやり方が分かっていて使いやすいのですよね。

村田：そうなんですよ。

中村：今まで塾をやっていて一番苦労したことは何ですか。

村田：苦労したことないかもしれんなあ。楽しくやらして貰っています。

中村：では、楽しいこと、嬉しいことは何ですか。

村田：毎日が結構楽しいのです。塾全協も地域の仕事も。

中村：地域の仕事って何ですか。

村田：青少年対策委員長です。月1回くらいボランティアでパトロールしています。

中村：その時間帯の授業は？

村田：そのために人を雇っています。

中村：うわあ、大変だ！ところで先ほどお聞きした人数ですが、中1が12人で中3が8人と言うのは来年が怖くなくて、それどころか楽しみですね。

村田：そうですね。中3ばかりだと次の年が怖いし、中1が2桁いるのは珍しいと言われます。



時間が11時15分位になり、村田先生が11時半から面接があり、私も帰りの新幹線の時間が迫ってきたので、ここでおいとますことにしました。以前先輩の塾経営者が「もう早くやめたいよ」なんて言っていたのを聞いた覚えがありますが、反対に毎日楽しんで塾をやっているという村田先生は羨ましい限りです。

ネット上で見つけました 元気の出る論文です

日本の教育を陰で支え続ける塾という存在

なぜ日本に塾の文化が根付いたのか

名門校に関する短期集中連載の最後に、あえて学校という枠を離れ、塾について考察してみたい。

明治になって、国が学校制度を整備し、読み書きそろばんを中心とした小学校とエリート養成を目的とした大学の間、旧制中学ができたときには、そこへの受験対策として塾が生まれた。戦後、学校教育は上級学校への進学指導を手放したが、上級学校は入学者選考に際し、試験による選抜を続けたために、その対策として塾が必要とされるようになった。

高度成長期にさしかかり、知的労働者階級が創出されると、教育の大衆化が進み、単線の学校制度というルールの上での競争が激化し、ますます塾が必要とされるようになった。「学校群制度」や「総合選抜制度」によって公立回避の気運が高まると、私学受験熱が高まった。その受け皿も塾だった。極端な「ゆとり教育」が推し進められたときには、やはり塾が存在感を増した。

変化に歪みはつきものだ。歪みに対して、子をもつ親の「不安」や「不満」が生じる。その「不」の解消を、塾が引き受けてきたわけである。逆に、身銭を切っても子どもによい教育を受けさせたいと思う国民性と、それを受け止める塾という存在があったからこそ、日本の教育制度は致命的な失敗を回避でき、比較的スムーズに変化してこられたともいえる。

たとえば、もし塾がなく、極端な「ゆとり教育」だけが推し進められていたら、日本の教育はもっと混乱していたかもしれない。現在の学力レベルは保てていなかったかもしれない。実は、塾は、私学を含めた学校制度を陰から支え続けていたわけである。

また、こういうこともできる。子をもつ親の「不」を受け止めるのが塾の役割である。その「不」に柔軟に対応した塾が栄え、生き残る。塾は、子をもつ親の「不」つまり「ニーズ」を如実に映し出す鏡のような存在なのだ。

塾というバックアップシステム

公教育が「与えられた教育」であるとするならば、民間教育は「自ら求める教育」といえる。その2つがあることで、日本の教育は常にバランスを保ち、かつ、柔軟に進化し続けることができた。仮に国が、国民の意に反した教育を国民に押し付けたとしても、私たちには塾で学ぶという選択肢が残されている。これは、世界でもまれに見るハイブリッドな教育システムなのである。

学校システムにさまざまな問題が指摘されている今、全国に約5万あるといわれる塾という教育資産を活用しない手はない。しかし、それは単に塾を学校教育に組み込むとか、塾を文科省の管轄下に置くとかいう話ではない。むしろ学校システムや教育行政を監視し、補完する役割として、また子どもやその親たちのニーズを映し出す鏡として、塾のもつ機能に期待したい。

もし今、塾がなくなったら、保護者は今以上に、学校に受験指導を要求するようになるはずだ。そうすれば学校は今の姿を保てなくなる。塾があることで、学校は学校の本分をまっとうできているのだ。塾があることで、実はこの国の学校文化が守られてきた部分があると言える。

また現在、塾があることで、子どもたちは自分に合った勉強方法を模索することができているとも言える。もし今、塾がなくなったら、受験生は全員、学校の指導に従わなければいけないことになる。学校の指導が自分に合わないと思っても、逃げ場がなくなる。

塾というと「必要悪」というイメージが強いが、実は塾があることで、この国の教育の多様性と安定性が保たれていることは、忘れてはいけない。

「教育再生」のかけ声のもと、今この国では、大胆な教育改革が断行されようとしている。うまくいけばいいが、リスクも大きい。その意味で、塾というバックアップシステムは、この国最大の資産とっていいかもしれない。

日本における塾の歴史や、時代時代における存在意義、また、塾の最新事情については拙著『進学塾という選択』を参照されたい。

おおた としまさ

教育ジャーナリスト

麻布高校卒業、東京外国語大学中退、上智大学卒業。リクルートから独立後、数々の教育誌の企画・監修に携わる。中高の教員免許、小学校での教員経験、心理カウンセラーの資格もある。著書は『名門校とは何か？ 人生を変える学舎の条件』『男子校という選択』『女子校という選択』『進学塾という選択』など多数。

NPO 塾全協東日本ブロック 今後の主な予定(2017年度)

8月13日(日)～15日(火)

ブリテッシュヒルズ 2017年度第2回 24時間英語合宿

9月18日(日) 東京 進学相談会

9月24日(日) 千葉 進学相談会

9月24日(日) 埼玉 進学相談会

編集 NPO塾全協東日本ブロック 事務局長 中山和行
〒350-0322 埼玉県比企郡鳩山町今宿229番地

TEL 049-296-1111 FAX 049-296-1111 E-mail gyqbt650@ybb.ne.jp

NPO塾全協東日本ブロックHP <http://www.jzk-east.com>